

## 【大阪モデル「非常事態」（赤色信号）の指標の状況】

モニタリング指標	非常事態の目安 (いずれかが 目安に達した場合)	1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月23日	1月24日 (13時時点)
①直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	—	253.93	303.73	343.22	382.08	423.86	451.76	
②病床使用率（重症・軽症中等症ともに確保病床数）	50%以上	29.0%	31.3%	35.8%	40.5%	44.4%	47.8%	<b>50.2%</b>
③重症病床使用率	40%以上	2.3%	2.1%	2.8%	3.3%	3.9%	3.8%	

○ステージ移行については、指標の目安の到達状況を踏まえつつ、感染状況や医療提供体制の状況、感染拡大の契機も十分に考慮し、専門家の意見を聴取したうえで、対策本部会議で決定する。

○1月24日に全体病床使用率が50.2%（13時時点）となり、「非常事態」（赤色信号）の目安（50%）を超過。

## ＜府の感染・医療提供体制の状況＞

- 1月23日時点で感染収束の兆し（20・30代新規陽性者数が減少傾向にあるなど）が見られず、今後も感染拡大又は高水準での推移が想定されること（1月21日に国に対し、まん延防止等重点措置適用を要請中）。
- 急激な感染拡大が継続していることから、今後、軽症・中等症の医療提供体制等が急速にひっ迫するとともに、重症者数の増加につながるおそれ強いこと。  
また、一般救急患者搬送困難事案が急増しており、コロナ医療と一般医療の両立が困難な事態が近づきつつあること。

## ＜新型コロナウイルス対策本部会議専門家会議 朝野座長のご意見＞

- 大阪モデルの信号の点灯については、事前に決定されていた基準で実施することに賛成。赤信号点灯によって、感染対策の必要性の再確認と遵守、3密や大声による会話の場を避けるなどの行動変容が期待。（詳細は資料2-2のとおり）

**1月24日（月）に非常事態（※）に移行（赤信号点灯）** ※国のレベル3相当